

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200316		
法人名	有限会社 祥		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	佐賀県三養基郡上峰町大字堤1907番地1		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	平成30年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成30年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、利用者職員が楽しく日常生活が送れるよう、職員が利用者の思いに沿ったケアに努められるように考えケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道より少し奥に入った敷地に建てられた2ユニットのホームである。建物は南向きで大きな窓から光が差し込み、周りにはさくらんぼのなる桜や、季節の実のある木々が育ち、入居者・職員が共にゆったりとした環境の中で、過ごされている。また、歌や体操などのレクリエーションを取り入れながら、その人らしい日常生活を送ることができるよう、入居者一人ひとりの生活リズムを大事にされている。「明るく楽しくゆったり」との理念を掲げ、家庭的な関わりを大切にしており、時間にとらわれず、入居者に合わせた細やかな気配りと丁寧な介護に努められているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	西棟	東棟		西棟	東棟
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日常的に理念に基づく運営方針を職員に話している。職員も理念の意義を理解し業務に励んでいる。目に付きやすい現場に理念を掲示している。	管理者は日常的に理念に基づく運営方針を職員に話している。職員も理念の意義を理解し業務に励んでいる。目に付きやすい現場に理念を掲示している。	「明るく楽しくゆったり」という理念を作成し、リビングや事務所など目につきやすい場所に掲げている。カンファレンス時に職員間で唱和を行い、理念を意識したケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議で地域でのイベントをお聞きし、少人数での参加を行っている。	散歩時には積極的に挨拶をしている。子供110番等を取り入れ少しでも近所の方との交流ができるようにしている。	散歩時などには近隣住民と挨拶が交わされている。子供110番の設置をされ、地域の方に意識してもらえるよう工夫がされている。地域全体での日常的な交流や受け入れはこれからである。	ホームが地域の住民地より離れており、地域の方々の訪問が少なくなっている。ホーム側からも地域行事へ出向いていくなど、意欲的な関わりを増やす取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会、民生委員の方達と話し合い地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか議論している。グループホームのイベントの参加の働きかけ、老人会への参加等議論はしているが取り組みまでの状況までなっていない。	老人会、民生委員の方達と話し合い地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか議論している。グループホームのイベントの参加の働きかけ、老人会への参加等議論はしているが取り組みまでの状況までなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、老人会の会長等、いろんな意見、アドバイスをお伺いして、出来ることは実行している。家族へ参加して頂くように発信をしているが、現在参加なし、利用者様へ参加を促している。	民生委員、老人会の会長等、いろんな意見、アドバイスをお伺いして、出来ることは実行している。	2ヶ月1度開催し、地域包括支援センター職員、区長、民生委員などが参加され、意見交換されている。しかし、家族の参加は難しい。	日時の調整な、ど家族も参加しやすい取り組みに期待したい。また、議事録等の書類の整備も望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的ではないが役場との連絡を密にし相談等している。月に1度の会議に積極的に参加している。	定期的ではないが役場との連絡を密にし相談等している。月に1度の会議に積極的に参加している。	地域包括支援センターのケア会議に参加され、いつでも連絡や相談ができる関係づくりがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束がないように介護に取り組んでいる。職員も身体拘束をしないように理解している。カンファレンス時に勉強会を行っている。	身体拘束がないように介護に取り組んでいる。職員も身体拘束をしないように理解している。カンファレンス時に勉強会を行っている。	カンファレンスや研修会で、身体拘束についての理解を促し、職員全員が共有をしながら、身体拘束に頼らないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。	マニュアルを作成し勉強会で認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業(安心サポート)成年後見制度を理解し、(安心サポート)利用されている利用者の方に支援している。	地域福祉権利擁護事業(安心サポート)成年後見制度を理解し、(安心サポート)利用されている利用者の方に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき十分な説明を行っている。利用者、家族の解らない事等は尋ね、説明し理解・納得を得られるようにしている。	契約書に基づき十分な説明を行っている。利用者、家族の解らない事等は尋ね、説明し理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の現状を理解して頂けるよう、管理者は家族の方へおたっしゃ通信等を利用して状況を報告している。苦情、不満、取り入れて欲しいこと等ないかご家族の方の意見を常にお伺いできるようにしている。	利用者様の現状を理解して頂けるよう、管理者は家族の方へおたっしゃ通信等を利用して状況を報告している。苦情、不満、取り入れて欲しいこと等ないかご家族の方の意見を常にお伺いできるようにしている。	面会の際に声かけを行い、家族の意見や要望が聴き取られている。出された意見は職員全体で共有され、改善や実践に活かせるよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のカンファレンスにより意見交換し、スタッフの声に耳を傾け反映できるようにしている。	月に1度のカンファレンスにより意見交換し、スタッフの声に耳を傾け反映できるようにしている。	管理者は会議を含め、日常的に職員の意見や提案を聞き取りに努め、ケアの改善や、職員が働きやすい環境作りに配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	居室担当者を持つこと、役割を与えられることで意識の向上を持ち働けるよう努めている。	居室担当者を持つこと、役割を与えられることで意識の向上を持ち働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示し、参加を促している。	研修案内を掲示し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへ訪問等し、交流がふかめられるように取り組んでいる。	他グループホームへ訪問等し、交流がふかめられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のお話を傾聴し、その人どのような生活をして行きたいか理解できるよう努めている。	利用者様のお話を傾聴し、その人どのような生活をして行きたいか理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時にはよく家族の思いを傾聴し、不安な事、求められている事を理解するよう努めている。また入居後も日頃どの様な支援を求められているか伺うようにしている。	相談時にはよく家族の思いを傾聴し、不安な事、求められている事を理解するよう努めている。また入居後も日頃どの様な支援を求められているか伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を良く聴き必要と思われるサービスの提供に努めている。	本人と家族の話を良く聴き必要と思われるサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるように明るく、楽しく、ゆったりとを大切に、利用者の方と共に楽しみ、喜怒哀楽も一緒に共有できるような関係を築けるようスタッフは協力している。	理念にもあるように明るく、楽しく、ゆったりとを大切に、利用者の方と共に楽しみ、喜怒哀楽も一緒に共有できるような関係を築けるようスタッフは協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の心配事、気になられている事を大切に利用者の方の支援が出来るように介護を行っている。今まで外に出られなかった利用者の方が外に出られるようになったと家族の方も喜んでおられる。	家族の方の心配事、気になられている事を大切に利用者の方の支援が出来るように介護を行っている。今まで外に出られなかった利用者の方が外に出られるようになったと家族の方も喜んでおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様とスタッフは馴染みながらの関係を築き、ゆっくり、安心できるよう心がけてサービスの提供をしている。	利用者様とスタッフは馴染みながらの関係を築き、ゆっくり、安心できるよう心がけてサービスの提供をしている。	知人や馴染みの関係の来訪は少なくなっているが、家族の協力もあり、近くの神社や自宅へ行くなど、馴染みの場所との関係継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の出来る事の範囲内で役割、仕事をして頂く事により、自然に利用者同士の関係がよくなるよう支援している。時には利用者同士の助け合いの場面も見られるようになった。	その人の出来る事の範囲内で役割、仕事をして頂く事により、自然に利用者同士の関係がよくなるよう支援している。時には利用者同士の助け合いの場面も見られるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了された家族の方にも定期的に手紙等を出し、その後の様子が解る様に支援している。いつでも遊びに来てくださるよう家族の方にもお願いしている。	サービス利用終了された家族の方にも定期的に手紙等を出し、その後の様子が解る様に支援している。いつでも遊びに来てくださるよう家族の方にもお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、ケアプラン作成時におこなっている。又困難な場合は自分だったら・・・と考えるように努めている。家族の方の、利用者様の昔の事を知っている方等より意見を聞き取り入れている。	アセスメント、ケアプラン作成時におこなっている。又困難な場合は自分だったら・・・と考えるように努めている。家族の方の、利用者様の昔の事を知っている方等より意見を聞き取り入れている。	日頃の生活の場面や動作から、思いや意向の把握に努められている。把握が難しい場合は、これまでの生活歴などを家族や関係者から聞くことで、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経過記録に記録を残し、特変時は別に記入している。利用者様の現状を理解しその方の状態に合わせて支援を行っている。	経過記録に記録を残し、特変時は別に記入している。利用者様の現状を理解しその方の状態に合わせて支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録、その方の行動、状態を観察し、時間、日によって状態が違うのでスタッフは注意し観察し支援している。	毎日の記録、その方の行動、状態を観察し、時間、日によって状態が違うのでスタッフは注意し観察し支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を基に、職員間で話し合い介護計画書を作成している。	本人、家族の意向を基に、職員間で話し合い介護計画書を作成している。	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に更新をしている。作成時は、本人や家族の意見を参考に作成し、カンファレンスで職員間での共有を行い、実情に応じた介護計画の作成に努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に経過記録を記入し、申し送りを行っている。	個人別に経過記録を記入し、申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・ご家族の要望を取り入れ、柔軟な支援を行っている。	利用者・ご家族の要望を取り入れ、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方、役場等の協力が得られるように交流をしている。消防には年に一度の消防訓練に参加してもらい、応急処置の講習も行っている。	民生委員の方、役場等の協力が得られるように交流をしている。消防には年に一度の消防訓練に参加してもらい、応急処置の講習も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を第一に考え昔からの主治医の先生に受診して頂いている。一週間に一度は田尻外科・胃腸科の先生にも往診に来て頂き利用者の方と信頼関係も築けている。	本人・家族の希望を第一に考え昔からの主治医の先生に受診して頂いている。一週間に一度は田尻外科・胃腸科の先生にも往診に来て頂き利用者の方と信頼関係も築けている。	入居時に本人や家族の意向を確認し、希望に応じたかかりつけ医を受診されている。他科受診を除けば、入居者の多くは一週間に一度往診での対応がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援	入居者様の日々の状態を観察し少しでも変化があれば看護師に報告を行っている	入居者様の日々の状態を観察し少しでも変化があれば看護師に報告を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・家族の意向を良く聴き早期退院できるよう病院関係者との情報・相談を行っている。	利用者・家族の意向を良く聴き早期退院できるよう病院関係者との情報・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関である田尻外科・胃腸科との連帯によりターミナルケアが出来るよう準備している。家族の方にも話し合い。ここで看取って欲しいと要望がある。	協力医療機関である田尻外科・胃腸科との連帯によりターミナルケアが出来るよう準備している。家族の方にも話し合い。ここで看取って欲しいと要望がある。	入居時の指針に沿って、重度化した場合の説明をし、状況に応じて家族の意向が確認されている。重度化する中で、協力医療機関と家族、ホームで方針を決めて、支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や入居者急変時マニュアルを掲示している。	事故発生や入居者急変時マニュアルを掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯を想定した避難訓練を定期的実施している。(4月10日に実施している)	日中、夜間帯を想定した避難訓練を定期的実施している。(4月10日に実施している)	年2回、火災避難訓練を行っており、地域住民への協力依頼も行われている。また、災害の際は、地域の防災無線で非常事態を伝えられるようにしており、非常時の備蓄もされている。しかし、夜勤専属職員の避難訓練参加と消防団を含めた地域からの応援体制は、まだ十分とはいえない状況にある。	夜勤専属職員への避難訓練への参加が望まれる。また、火災及び他災害時に地域からの具体的な応援が得られる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の方が理解できるよう、ゆっくり、話しやすい雰囲気言葉かけをおこなっている。申し送り時には、名前ではなく居室番号で申し送りをし利用者の方が気にされないように考慮している。個人情報の取り扱いには入社時に契約書を交わし個人情報を保護している。	職員は利用者の方が理解できるよう、ゆっくり、話しやすい雰囲気言葉かけをおこなっている。申し送り時には、名前ではなく居室番号で申し送りをし利用者の方が気にされないように考慮している。個人情報の取り扱いには入社時に契約書を交わし個人情報を保護している。	日頃から入居者の立場に立った対応が心がけられ、排泄や入浴の際には羞恥心に配慮したさりげない言葉掛けで誘導するなど、配慮されている。また、個人情報等は事務所の鍵付きの戸棚で保管するなど、取扱いにも注意されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に合わせた説明、自己決定ができるように支援している。言葉があまり出られない方は行動、表情等で察知できるよう観察し、情報交換し話し合いを行っている。	利用者の能力に合わせた説明、自己決定ができるように支援している。言葉があまり出られない方は行動、表情等で察知できるよう観察し、情報交換し話し合いを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の基本的な生活リズムを大切に、支援でできるように介護者は心がけている。	利用者様の基本的な生活リズムを大切に、支援でできるように介護者は心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より身だしなみを大切に自分の好みの服、髪型ができるように支援している。職員はおしゃれの大切さを考え、本人の望むおしゃれができるように支援している。	日頃より身だしなみを大切に自分の好みの服、髪型ができるように支援している。職員はおしゃれの大切さを考え、本人の望むおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等、利用者様のできる範囲を把握し、手伝って頂いている。手伝って頂く時も言葉掛けにより疲れていないか、精神的に苦痛をとまなっていないか、等、観察しながら職員と共に作業をして頂いている。	むせ込み等がないように、食事の形態やトロミを付け、献立を職員が口にしながら、ゆっくり、食事をして頂ける様に支援をしている。	本人の状況に応じて、配膳の準備・後片付けなど負担感のない程度で手伝ってもらっている。春先や天気がいい日には庭先で昼食をとるなど、食事が楽しめるよう工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の把握、こまめな水分補給にて健康な生活ができるように支援している。食事が楽しく多く摂取できるよう調理等を工夫している。	食事摂取量の把握、こまめな水分補給にて健康な生活ができるように支援している。食事が楽しく多く摂取できるよう調理等を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、歯磨き、うがいをを行い、入れ歯の方は、毎日、義歯の洗浄を実施している。歯科医の協力を得て口腔内の清潔保持を支援している。	毎食後に、歯磨き、うがいをを行い、入れ歯の方は、毎日、義歯の洗浄を実施している。歯科医の協力を得て口腔内の清潔保持を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を毎日行い、排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。失禁時にはパット交換を行っている。	排泄の記録を毎日行い、排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。パット交換を行っている。	排泄記録を行い、個々の排泄のリズムを観察し、トイレ誘導されている。負担感がないよう必要時は2人体制で行い、無理がない排泄の支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の状態を考慮した適度な運動。栄養バランスを考えての食事の提供をしている。歯がない方には小さく切り分けて食事を提供している。	利用者様の状態を考慮した適度な運動。栄養バランスを考えての食事の提供をしている。歯がない方には小さく切り分けて食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴されたい時間になるべく入浴できるよう支援している。失禁時には入浴にて対応している。	本人の入浴されたい時間になるべく入浴できるよう支援している。失禁時には入浴にて対応している。	週3回、本人の希望に応じて入浴ができる。気分や体調に合わせて、時間や入浴日を変更するなど、柔軟に対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・寝具の調整をし気持ちよく休息できるよう支援している。週に一度はシーツ交換をし寝具も清潔を保持できるようにしている。	温度・寝具の調整をし気持ちよく休息できるよう支援している。週に一度はシーツ交換をし寝具も清潔を保持できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている処方箋。内容が解らない薬は資料を出しスタッフがいつでも見られるようにファイルにて管理している。新しい薬が処方された時等は状態をよく観察し副作用による症状の変化等が見られる場合は医師に相談している。	服用されている処方箋。内容が解らない薬は資料を出しスタッフがいつでも見られるようにファイルにて管理している。新しい薬が処方された時等は状態をよく観察し副作用による症状の変化等が見られる場合は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力・好きな事ができるように趣味等を取り入れ安全に作業できるよう支援している。	能力・好きな事ができるように趣味等を取り入れ安全に作業できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の歩ける距離、認知力に応じて戸外にでられるよう支援している。利用者の方の安全を確保できるようスタッフは考え介護に従事している。	天気、気候の良い時に、玄関先まで花を見に車椅子等を使用し、散歩を行っている。	敷地が広く、庭先で日光浴や、ホーム内外の散歩をされており、裏庭にあるさくらんぼなど季節に応じた花や木々を見て楽しまれている。家族の協力を得ながら、個別に外出を楽しまれる入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価(西棟)	自己評価(東棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方へ理解を得て、お小遣いとして預かっている。一人一人のできる能力に対してお金の管理の支援を行っている。	家族の方へ理解を得て、お小遣いとして預かっている。一人一人のできる能力に対してお金の管理の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方へ理解を得て、希望に応じている。また電話が繋がらない時、心配される時は安心できる言葉掛けを行っている。	家族の方へ理解を得て、希望に応じている。また電話が繋がらない時、心配される時は安心できる言葉掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの強い時はロールカーテン等で調整をしている。中庭には季節の花を植え自然に季節を感じられるように工夫をしている。	日差しの強い時はロールカーテン等で調整をしている。中庭には季節の花を植え自然に季節を感じられるように工夫をしている。	リビングの大きい窓からは心地が良い光が差し込み、敷地内の花を楽しむなど季節を感じることもできる。また、リビングのソファでは、入所者が思い思いの場所で過ごすなど、ゆっくり過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を上手く利用し、廊下でも一人になれる場所を作っている。ホールが広い為、利用者同士で思い思いに過ごせるようになっている。	共用空間を上手く利用し、廊下でも一人になれる場所を作っている。ホールが広い為、利用者同士で思い思いに過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族の要望を聞き本人が使い慣れた物・好みの物を置けるようにしている。タンス、仏壇等持ってきて頂いている。又入居時の説明の時に馴染みのある物を持ってきて頂けるように説明している。	利用者・家族の要望を聞き本人が使い慣れた物・好みの物を置けるようにしている。タンス、仏壇等持ってきて頂いている。又入居時の説明の時に馴染みのある物を持ってきて頂けるように説明している。	居室には入居者の身体状況に合わせたベッドが用意され、壁には写真が飾られている。持ち込みは自由で、個人の好みに合わせたタンスや仏壇など馴染みの物を置くことができるなど、居心地よく過ごせる空間作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフはゆっくり丁寧に利用者の方に解りやすいように言葉掛けを行っている。混乱失敗がないように行動を観察し、さりげなくフォローするように努めている。	スタッフはゆっくり丁寧に利用者の方に解りやすいように言葉掛けを行っている。混乱失敗がないように行動を観察し、さりげなくフォローするように努めている。		